

# 身の回りにおける放射線

## 自然放射線

大地から



年間0.4mSv

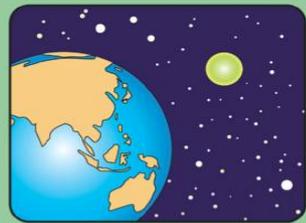
空気中から  
年間0.4mSv



飲食物から



年間0.4mSv



宇宙線から  
年間0.3mSv

## 人工放射線

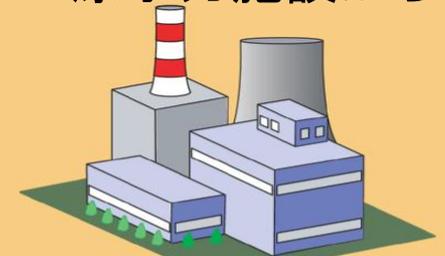
降下物から  
年間0.01mSv



医療から  
年間2.4mSv



原子力施設から

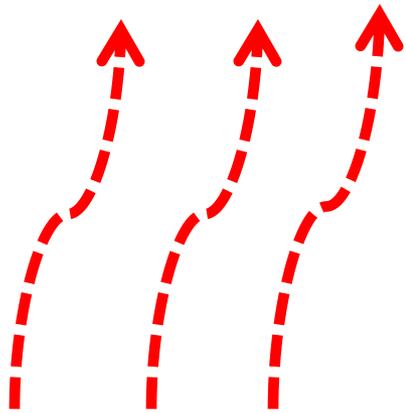


年間0.001mSv



# 原発事故後の都内での追加被ばく線量 合計 約0.24mSv

空気（吸入）  
（世田谷区）  
0.024mSv



空間線量

（新宿区）

0.1mSv

飲食物（経口）

（厚労省試算）

0.099mSv

水道水（経口）

（新宿区）

0.014mSv

参考：

朝日新聞・京大の食品調査（中央値）

福島県内 0.023mSv

関東 0.002mSv

東大研究チーム 都民の飲食物の被ばく量

乳児：0.048mSv

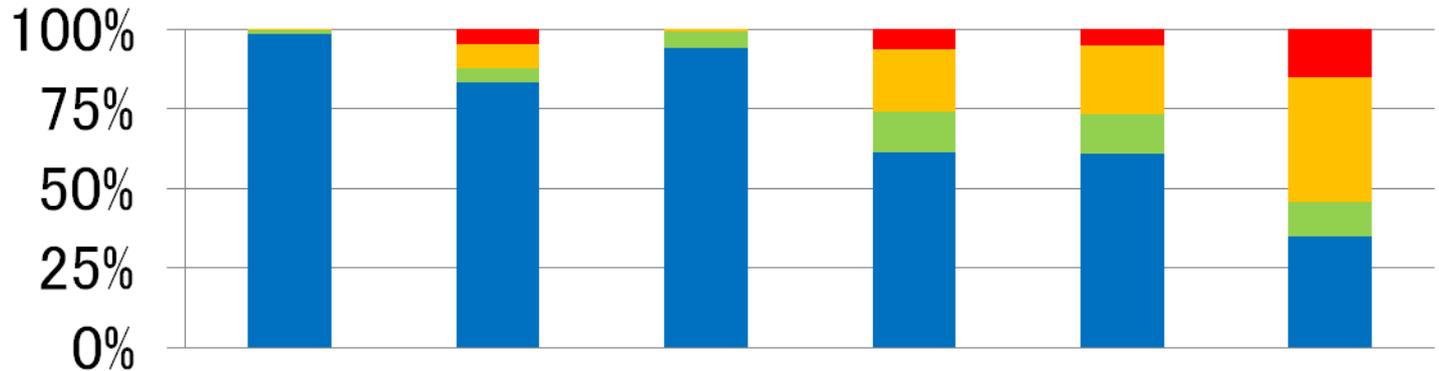
幼児：0.042mSv

成人：0.018mSv

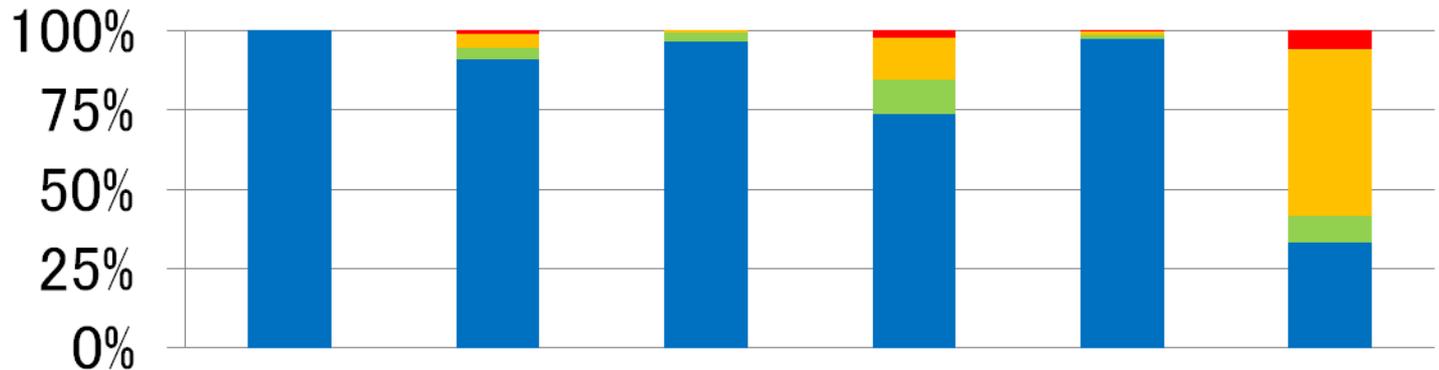
# 食品中の放射性セシウム 濃度分布の推移

2011年3-7月

- 500 Bq/kg以上
- ~500 Bq/kg
- ~100 Bq/kg
- ~50 Bq/kg

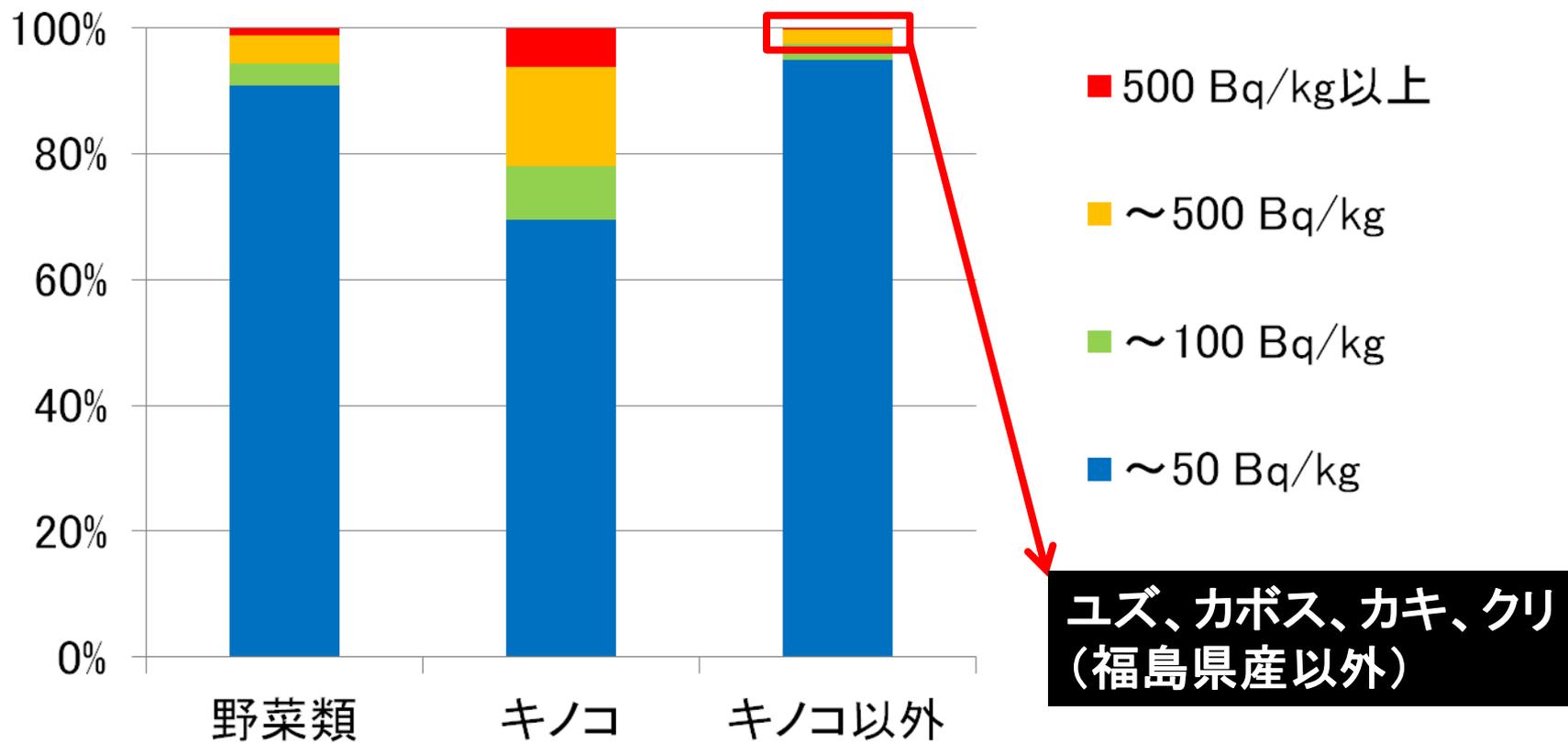


2011年8月~



牛乳・乳製品    野菜類    穀類    魚介類    肉・卵    その他

# 野菜類の放射性セシウムの濃度分布(2011年8月1日以降)



# ■ 食品の新たな基準値の設定について

## 1. 見直しの考え方

- 現在の暫定規制値に適合している食品は、健康への影響はないと一般的に評価され、安全は確保されているが、より一層、食品の安全と安心を確保する観点から、現在の暫定規制値で許容している年間線量5ミリシーベルトから年間1ミリシーベルトに基づく基準値に引き下げる。
- 年間1ミリシーベルトとするのは、
  - ① 食品の国際規格を作成しているコーデックス委員会の現在の指標で、年間1ミリシーベルトを超えないように設定されていること
  - ② モニタリング検査の結果で、多くの食品からの検出濃度は、時間の経過とともに相当程度低下傾向にあること
- 特別な配慮が必要と考えられる「飲料水」、「乳児用食品」、「牛乳」は区分を設け、それ以外の食品を「一般食品」とし、全体で4区分とする。

## 2. 基準値の見直しの内容（新基準値は平成24年4月施行予定。一部品目については経過措置を適用。）

### ○放射性セシウムの暫定規制値※1

食品群	規制値
飲料水	200
牛乳・乳製品	200
野菜類	500
穀類	
肉・卵・魚・その他	

※1 放射性ストロンチウムを含めて規制値を設定

### ○放射性セシウムの新基準値※2

食品群	基準値
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100
乳児用食品	50

(単位:ベクレル/kg)

※2 放射性ストロンチウム、プルトニウム等を含めて基準値を設定



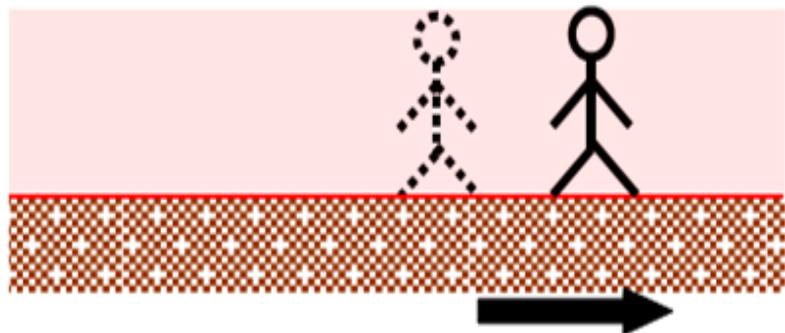
# 食品の新基準で行う検査の基本方針

- 検査対象地域 A・・・福島、宮城、茨城、栃木、群馬、千葉  
B・・・青森、岩手、秋田、山形、埼玉、**東京**、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡

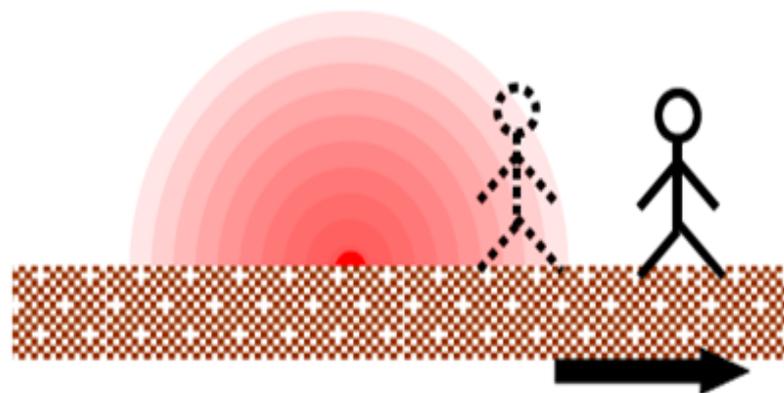
	A	B
<b>100Bq超の食品</b> 〔チンゲンサイ、カブ、モモ、ミカン、 原木シイタケ、牛肉、米、茶など〕	<ul style="list-style-type: none"><li>50Bq超の地域、 主要産地 →週3検体以上検査</li><li>その他の地域 →週1検体以上検査</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>50Bq超の地域 →週3検体以上検査</li><li>主要産地 →週1検体以上検査</li></ul>
<b>50Bq超100Bq以下の食品</b> 〔ジャガイモ、シュンギク、リンゴ、 ナシ、サツマイモなど〕	<ul style="list-style-type: none"><li>50Bq超の地域→週3検体以上検査</li><li>主要産地→週1検体以上検査</li></ul>	
<b>50Bq超の水産物</b> 〔マアジ、ヒラメ、アイナメ、アワビ、 アサリ、ワカメなど〕	<ul style="list-style-type: none"><li>福島、宮城、茨城、岩手、千葉の5県 →週に1検体以上検査</li></ul>	

※原則として、市町村ごとに検査を実施する。

# 放射線量の考え方 イメージ



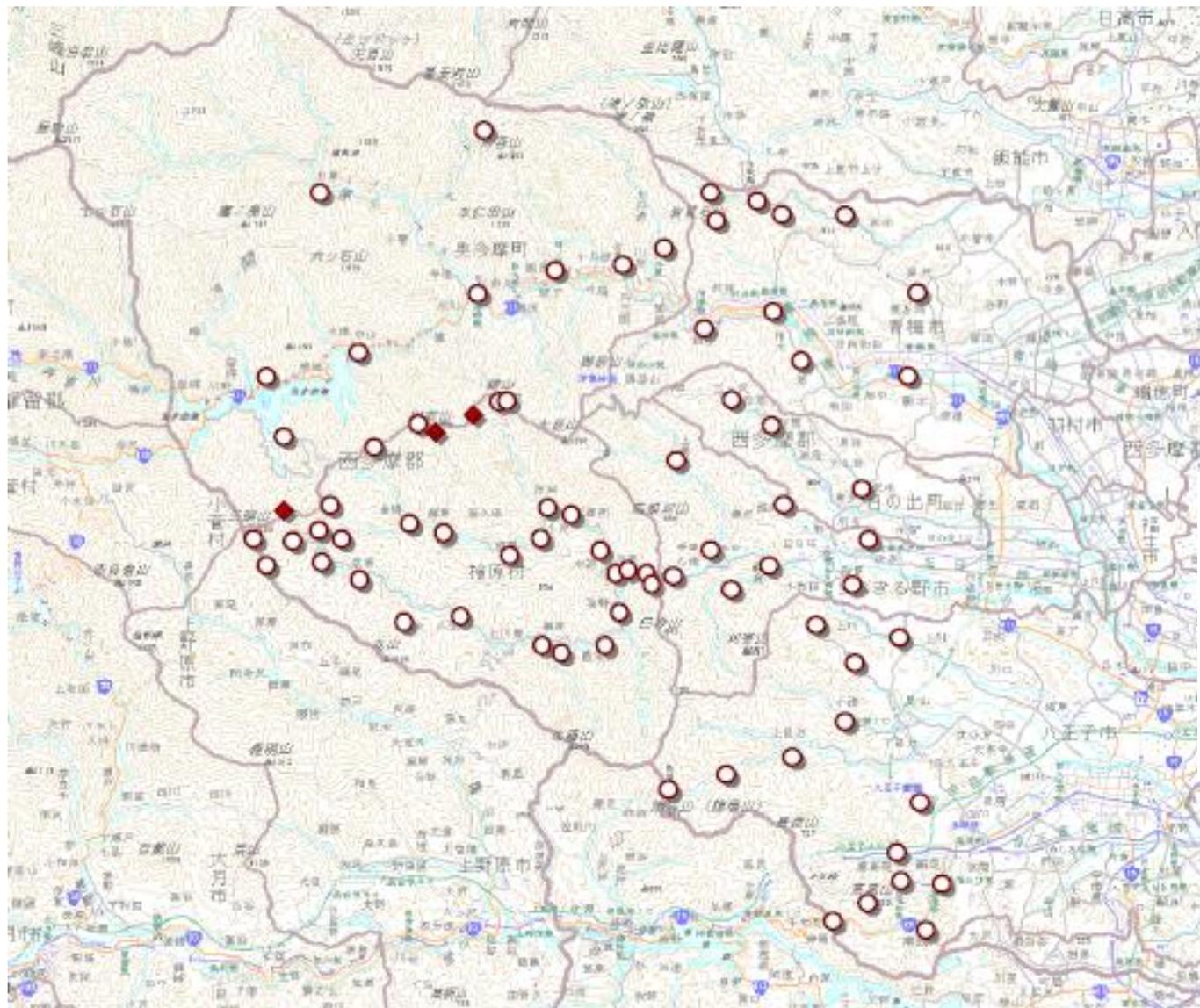
放射性物質が周辺に均一に存在する場合



放射性物質が局所に集中して存在する場合



# 都内山間部における空間放射線量調査 測定結果（平成23年10月8日～10月25日） （東京都調査）



● 市町村別測定数

市町村名	測定数
奥多摩町	9
檜原村	35
青梅市	10
日の出町	3
あきる野市	8
八王子市	14

◆ : 0.1  $\mu\text{Gy}/\text{時}$  超  
 ○ : 0.1  $\mu\text{Gy}/\text{時}$  以下  
 (最大0.13  $\mu\text{Gy}/\text{時}$ )  
 値は自然放射線量を含みます

# 水道原水等における放射性物質の調査結果について(平成23年度) (東京都調査)

## 【調査期間】

平成23年9月から平成24年1月

## 【調査対象】

水道原水及び飲用井戸等 計109箇所

内訳 地下水(水道原水及び飲用井戸等) 85箇所

表流水(水道原水) 24箇所

## 【調査方法】

測定機関 健康安全研究センター

測定機器 ゲルマニウム半導体検出器

測定項目 放射性ヨウ素131、放射性セシウム134、放射性セシウム137

## 【測定結果】

109箇所 すべて不検出(検出限界 1.0Bq/Kg)